

京都府立医科大学消化器内科で臨床研究を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

肝臓に関する研究へのご協力をお願い

京都府立医科大学消化器内科では、肝臓の患者さんを対象とした臨床研究『肝臓において HMGB1 が代謝・増殖シグナルに与える影響』を実施いたします。

本研究は、過去に実施された先行研究『血清 AIM (apoptosis inhibitor of macrophage) の肝細胞癌（肝臓）診断の有用性に関する検討』でご提供いただいた血液を用いて解析を行い、さらに肝臓の研究を進展させることを目指します。

本研究は実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

肝臓は B 型および C 型肝炎ウイルスをはじめ、アルコールや薬剤によるもの、免疫異常による自己免疫性肝炎や原発性胆汁性胆管炎、脂肪肝、さらには原因不明なものまで多岐にわたる慢性肝疾患から発症します。代謝・増殖シグナルが重要な働きをしていると言われてはいますが、どのように肝臓を発症し進展するのかといった詳細は明らかではありません。さらに近年はメタボリック症候群とともに脂肪肝、特に非アルコール性脂肪肝炎（NASH）からの肝臓が増加しており、重大な健康問題の一つとなっています。脂肪肝に対して確立した治療はなく、発症の仕組みの詳細も分かっていません。仕組みを明らかにすることで、肝臓の早期発見や予防および治療を進展させることが急務となっています。

そこで先行研究に参加された肝臓患者さんを対象に、ご提供頂いた血液を用いて HMGB1 という分子が分子シャペロンを介して脂質・糖・アミノ酸代謝および増殖シグナルに与える影響を分析します。分析結果と、病歴や診察時の血液検査や画像検査（超音波・CT 等）、肝臓の病理検査などの結果をあわせて検討します。本研究にご参加いただくことにより、重大な健康問題である肝臓の新しい早期発見法の確立や、新規治療や予防法などの開発に貢献できると考えておりますので、是非ご協力をお願い致します。

研究の方法

〔対象となる方について〕

先行研究『血清 AIM (apoptosis inhibitor of macrophage) の肝細胞癌（肝臓）診断の有用性に関する検討』の承認日（2016年07月12日）から2022年3月31日までの間に京都府立医科大学で肝臓のため診療を受け、この先行研究に参加された方を対象とします。

〔研究期間〕 医学倫理審査委員会承認後から 2023 年 3 月 31 日

〔方法〕

先行研究でご提供頂いた血液を用いて、HMGB1、分子シャペロンおよび脂質・糖・アミノ酸代謝および増殖シグナルを分析します。また、診療記録より以下の情報を調べ利用させていただきます。

〔取得する情報〕

年齢、性別、身体所見（身長、体重、血圧、腹囲など）、診断名、病歴、家族歴、嗜好歴、合併症、薬などの治療内容および期間、長期予後、再発・死亡などの経過、血液検査データ、画像検査結果、病理学的所見、カルテ番号。

研究組織

実施責任者 京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学 助教 榎村敦詩

お問い合わせ先

ご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象の患者さん、もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2019 年 3 月 31 日までに下記連絡先までお申し出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

ただし、研究参加拒否の申し出があった時点で既に研究結果が論文などで公表されていた場合など、検査結果を廃棄することができない場合もございます。

連絡先 京都府立医科大学消化器内科

電話番号：075-251-5519（消化器内科）

担当者名 榎村敦詩（うめむらあつし、研究責任者）